

目 次

【1年前期・通年】

美と感性

暮らしと環境

コンピュータ演習

食にかかわる化学

世界の食文化 <通年科目>

英語コミュニケーション

外国語（ハンデル）

外国語（日本語）

インターンシップ <通年科目>

ビジネスマナー

純真ゼミナールⅠ

【1年後期】

文章表現法

純真ゼミナールⅡ

| | | | | | | | | |
|--|--|--|---------|---------------|-----------|----------|----------------|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 美と感性 | | 難波 章人 | | 1 | 前期 | 講義 演習 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1101 | | |
| | | 担当教員 | 難波 章人 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | デッサン | 美しいと感じるものには定義があり、それに基づいて色彩と形が作られている。そうしたことを理解してデッサン、色彩の平面構成、折り紙、立体物の作り方を解説する。特に、本講義では、今後、食にかかわる専門分野を学んでいく中で自分なりの感性や発想を持つことの重要性を学ぶ。 | | | | | | |
| 2 | 色彩 | | | | | | | |
| 3 | 平面構成 | | | | | | | |
| 4 | デザイン | | | | | | | |
| 5 | 立体制作 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | |
| 1. 美の成り立ちと定義を理解する。 | | | | | | | | |
| 2. デッサンの基礎的な技術を身に付けることができる。 | | | | | | | | |
| 3. 自分なりの感性を持って色彩や物を美しく見せることができる | | | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | | 提出物 | | | 態度 | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | | 70% | | | 30% | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | | F | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満した成績 | 合格に至らない成績 | | 受験資格なし(出席回数不足) | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | | 0 | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | | | |
| A | 講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | | | |
| B | 講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | | | |
| C | 講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。 | | | | | | | | |

| 【教科書】 特に指定しない | | |
|---|-----------|--|
| 【参考書・参考資料等】 色彩ガイドブック、色彩検定3級本試験対策、配色イメージブック、色彩と配色の基礎知識 | | |
| 【関連科目】 絵画・造形 | | |
| 【受講心得】 意欲的に参加すること。 | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 美の定義 | | <p><学習内容>美しいと感じさせるものには美の定義が存在する。絵画や彫刻の美術作品や自然界の中から美の定義を解説する。また、日本の文化の一つとして折り紙の基本を学ぶ。</p> <p><事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>黄金比、白銀比、整数分割についてまとめておく。（1時間）</p> |
| 2 デッサンの基礎学習① | | <p><学習内容>基本的な構図の取り方と単純な形をした立体の描き方を解説する。他、使える折り紙の基本を学ぶ。</p> <p><事前学習>準備物の用意をしておく。（1時間）</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。（1時間）</p> |
| 3 デッサンの基礎学習② | | <p><学習内容>水彩画材を使った静物画の描き方を解説する。他、遊べる折り紙の基本を学ぶ。</p> <p><事前学習>モチーフを探しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。（1時間）</p> |
| 4 色彩の基礎学習① | | <p><学習内容>色彩の成り立ちを知り、色相環と配色について解説する。色紙を切り貼りして色彩学習を行う。また、色彩の心理的作用について解説する。</p> <p><事前学習>好きな色を考えておく。（1時間）</p> <p><事後学習>色相環図をまとめておく。（1時間）</p> |
| 5 色彩の基礎学習② | | <p><学習内容>各自が食べたメニューをまとめ、それぞれ色に置き換える作業を行う。その中で、美味しく感じるメニューと色との関連性について考えていく。</p> <p><事前学習>好きなメニュー・食べものを考えておく。（1時間）</p> <p><事後学習>自分の食生活を色を通して考えてみる。（1時間）</p> |

| | | |
|----|------------|---|
| 6 | デザイン基礎学習① | <p><学習内容>デザインの基礎として単純化や平面分割について解説する。食に関するチラシや広告からデザイン的な処理を考える。</p> <p><事前学習>食に関するチラシや広告を探しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>デザインで扱う用語をまとめておく。(1時間)</p> |
| 7 | デザイン基礎学習② | <p><学習内容>選んだ食べ物のチラシ案を色鉛筆、ポスターカラーを用いてイラストレーションを描く。</p> <p><事前学習>選んだ食べ物のチラシ案の下絵を考えておく。(1時間)</p> <p><事後学習>イラストを完成させる。(1時間)</p> |
| 8 | 食品サンプル制作A① | <p><学習内容>紙粘土によるクッキー制作を行う。クッキーの形作りは型紙にて決定される。</p> <p><事前学習>クッキーの形を考えておく。(1時間)</p> <p><事後学習>紙粘土のクッキーの乾燥までの作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 9 | 食品サンプル制作A② | <p><学習内容>紙粘土のクッキーに好きなアニメを原画から転写して絵具で着色する。紙粘土による食材制作を行う。</p> <p><事前学習>好きなアニメの原画を探しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>転写後の作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 10 | 食品サンプル制作A③ | <p><学習内容>紙粘土による食材制作を行う。</p> <p><事前学習>紙粘土の乾燥までの作業の遅れを進める。(1時間)</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 11 | 食品サンプル制作A④ | <p><学習内容>紙粘土による食材制作後の着色を行う。背景を工夫した写真の撮り方を解説する。</p> <p><事前学習>紙粘土のクッキーの乾燥までの作業の遅れを進める。(1時間)</p> <p><事後学習>写真撮影までの作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 12 | 食品サンプル制作B① | <p><学習内容>蝋によるレタスの食品サンプル制作を行う。</p> <p><事前学習>(1時間)</p> <p><事後学習>型取りまでの作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 13 | 食品サンプル制作B② | <p><学習内容>型作りから行う蝋のキャンドルライト制作を行う。</p> <p><事前学習>(1時間)</p> <p><事後学習>型取りまでの作業の遅れを進める。(1時間)</p> |

| | | | |
|-----|------------|--|--|
| 1 4 | 食品サンプル制作C① | | <p><学習内容>現代社会におけるアートの効果を解説する。名画を様々な食材の写真等で再現する制作を行う。</p> <p><事前学習>好きな絵画があれば用意をする。(1時間)</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。(1時間)</p> |
| 1 5 | 食品サンプル制作C② | | <p><学習内容>アートの客観性と意外性について解説する。名画を様々な食材の写真等で再現する制作を行う。</p> <p><事前学習>足りない食材写真を収集する。(1時間)</p> <p><事後学習>完成までの作業を進める。(1時間)</p> |
| 1 6 | 試験 | | <p>陰影を付けた立体物のデッサンと色彩構成・平面構成の実技試験</p> |

| | | | | | | | | |
|--|--|--|---|----------------|-----------|--------|--------------------|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 暮らしと環境 | | 都築 廣久 | | 1・2 | 通年 | 講義・演習 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 複数 | ナンバリング | | FN1102 | | |
| | | 担当教員 | 都築 廣久、今村 隆信、宅間 真佐代、 下村 久美子、橋本 聖子、松藤 泰代、津村 有紀 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | 食育 | 学生が奉仕活動と学習活動を兼ねた「サービスマーケティング」に取り組み、併せて全学的な広報活動、学内で実施される学科主体の講座、学外企業との共同企画に係わることにより、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ボランティア精神の涵養を図る。また、宿泊体験も兼ねた集団での共同生活（食育キャンプ）を通じて見聞を広げ、自発性、協調性、積極性及び表現力を磨くこととする。 | | | | | | |
| 2 | 環境 | | | | | | | |
| 3 | ボランティア | | | | | | | |
| 4 | 社会貢献 | | | | | | | |
| 5 | 公開講座 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | 1. 全学的な活動で自己を成長させることができる。 2. 奉仕活動への意識を増長させることができる。 3. 地域貢献活動の成果を認識することができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | ○ |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | ○ |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | ○ |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | ○ |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | ○ |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | 取り組み姿勢 | | | 課題・提出物 | | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | 60 | | | 40 | | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | | F | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | | 受験資格なし (出席回数不足) | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | | 0 | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物に必要な内容を的確に記述している。 | | | | | | | |
| A | 取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。 | | | | | | | |
| B | 取り組み内容を理解しているが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。 | | | | | | | |
| C | 取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容の記述に留まっている。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。 | | | | | | | | |
| 【教科書】 | | | | | | | | |
| 特に指定しない。適宜資料を配付する。 | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|---|
| 【参考書・参考資料等】 特に指定しない。 | | |
| 【関連科目】 「純真ゼミナールⅠ」「純真ゼミナールⅡ」 | | |
| 【受講心得】 自ら積極的に活動に取り組む姿勢をもつこと。 | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | 都築 宅間 今村 | <p>＜学習内容＞授業の目的と具体的な全学的な広報活動例、学内で実施される学科主催の講座、学外企業等との共同企画を紹介する。</p> <p>＜事前学習＞ボランティア活動について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞履修への思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）</p> |
| 2 | 今村 | <p>＜学習内容＞ボランティアとは何かについて、その特性や意義、役割等を通して学習するとともに、グループ協議を行いまとめる。</p> <p>＜事前学習＞自身が体験したボランティア活動についてまとめておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞学習したことをグループでレポートとしてまとめ、提出する。（1.0時間）</p> |
| 3 | 今村 | <p>＜学習内容＞生涯学習の観点から、ボランティア活動の動きや社会的な役割について理解を深める。</p> <p>＜事前学習＞生涯学習について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞生涯学習とボランティアについてグループでレポートにまとめて提出する。（1.0時間）</p> |
| 4 | 今村 | <p>＜学習内容＞生活環境にかかわるボランティア活動と生きることに関するボランティア活動の種類と意義について理解を深める。</p> <p>＜事前学習＞ボランティア活動の種類について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞自分たちがボランティア活動に参加するとして、グループでレポートにまとめて提出する。（1.0時間）</p> |
| 5 | 宅間 下村 松藤 津村 | <p>＜学習内容＞UR都市機構、福岡市南区健康課・衛生課との共同企画によって開催する「料理教室」において食に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p>＜事前学習＞料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 6 | 宅間 下村 松藤 津村 | <p>＜学習内容＞UR都市機構、福岡市南区健康課・衛生課との共同企画によって開催する「料理教室」において食に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p>＜事前学習＞料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 7 | 都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村 | <p>＜学習内容＞庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p>＜事前学習＞食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 8 | 都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村 | <p>＜学習内容＞庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p>＜事前学習＞食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |

| | | | |
|----|------------|--|---|
| 9 | 食育キャンプ (3) | 都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村 | <p><学習内容>庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p><事前学習>食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 10 | 食育キャンプ (4) | 都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村 | <p><学習内容>庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p><事前学習>食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 11 | 公開講座 (1) | 宅間 下村 松藤 津村 | <p><学習内容>小学生を対象にした「ランチにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p> |
| 12 | 公開講座 (2) | 都築 橋本 | <p><学習内容>小学生を対象にした「サイエンスにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>試薬の調製、媒体の作成、食材の下ごしらえをしておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートをまとめておくこと。（1.0時間）</p> |
| 13 | 実践報告会 (1) | 都築 宅間 今村 | <p><学習内容>ボランティア論、親子レシピ講座、食育キャンプ及び公開講座で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。（1.0時間）</p> |
| 14 | 実践報告会 (2) | 都築 宅間 今村 | <p><学習内容>ボランティア論、親子レシピ講座、食育キャンプ及び公開講座で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。（1.0時間）</p> |
| 15 | まとめ | 都築 宅間 今村 | <p><学習内容>初回から第14回までの内容の総まとめを行う。</p> <p><事前学習>親子レシピ講座、公開講座の補助、食育キャンプなどの成果をまとめておく。（1.0時間）</p> <p><事後学習>履修した感想や学びの達成観などを「事後レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）</p> |

| | | | | | | |
|----------------------|--------|-------|----|--------|--------|-----|
| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| コンピュータ演習 (食物栄養学科) | 石橋 晃一 | 1 | 前期 | 演習 | 必修 | 2 |
| | 担当形態 | 単独 | | ナンバリング | FN1104 | |
| | 担当教員 | 石橋 晃一 | | | | |

| | |
|----------------|--|
| 【キーワード】 | 【概要】 |
| 1 セキュリティ対策 | 情報通信技術の発展に伴い、コンピュータに代表されるような情報機器はビジネスのみならず家庭にも普及し、現代人には必要不可欠な道具のひとつとなった。この演習においては、本短大コンピュータ室の機器の使い方やアプリケーションソフトの具体的な操作を通し、情報の収集、整理、処理、伝達手法を学び、今後の各種レポート作成などに利用活用できるようにする。さらに、急激に普及し身近になったSNSの利用やネットワークセキュリティポリシーなど、演習を行いながら昨今の情報化社会で役立つ技術やリテラシーを身につけることを目的とする。 |
| 2 コンピュータリテラシー | |
| 3 コンピュータスキル | |
| 4 インターネット・メール | |
| 5 情報基礎 | |

- 【到達目標】**
1. パーソナルコンピュータの基本的な操作ができる。
 2. インターネット、SNSの知識を習得し、取り扱うファイル、画像など説明ができる。
 3. Microsoft Office (Word、Excel、Powerpoint) ソフト等を使い活用できる。

| | |
|------------------------------|-----|
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | 関連性 |
|------------------------------|-----|

| | |
|-------------------|--|
| 【知識・理解・技能】 | |
|-------------------|--|

1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。

| | |
|-------------------|--|
| 【思考・判断・表現】 | |
|-------------------|--|

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。

| | |
|-------------------|--|
| 【関心・意欲・態度】 | |
|-------------------|--|

1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。

| | |
|------------------|--|
| 【成績評価の方法】 | |
|------------------|--|

| | | | | |
|----------|---------|------------|-------|-----|
| 成績指標 | 定期試験の成績 | 授業課題作成提出内容 | 受講態度等 | 合計 |
| 評価割合 (%) | 60 | 20 | 20 | 100 |

| | |
|------------------|--|
| 【成績評価の基準】 | |
|------------------|--|

| | | | | | | |
|----|---------|--------|---------|----------------|-----------|--------------------|
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし (出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |

| | |
|----|-------|
| 評語 | 評価の基準 |
|----|-------|

- | | |
|---|--|
| S | 授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 |
| A | 授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 |
| B | 授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 |
| C | 授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 |

| |
|-------------------------------------|
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 |
|-------------------------------------|

試験終了後、合格点に満たない場合は同程度の再試験を行うものとする。

| | | |
|---|--------------------------|--|
| 【教科書】 教科書は指定しない。 | | |
| 【参考書・参考資料等】 一部配布物あり、 適宜、指示する。 | | |
| 【関連科目】 「栄養情報実習」 | | |
| 【受講心得】 遅刻・欠席をしないこと 授業中の内容は自身のノートにまとめること ※ノートは定期試験時は閲覧不可。 提出した課題制作のデータについては自身で授業中に保存し、定期試験時に閲覧可能とする。 講義中に学生の進捗状況を確認できるモニタ監視ができる教育支援システムを使用している。 | | |
| 【備考】 卒業必修 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | オリエンテーションおよびコンピュータ基本操作 | <p><学習内容>パソコンの起動、ログインからログアウト、電源シャットダウン（終了）まで。 現状スキルアンケートの実施。 学内LAN設定。 今後の流れ（自身の学内情報：学籍番号やパスワード確認） <事前学習>シラバス確認/自身の学内情報持参（0.5時間） <事後学習>講義内容を復習（0.5時間）</p> |
| 2 | SNS利用上の注意およびICTセキュリティ | <p><学習内容>ネットリスクとSNS危機管理 学内ネットワーク、共有ディスクなどの使い方、学術情報。 文字入力（基本操作）とデータの保存 ※以後、配布物と合わせて、自身のリフィルなどに要点を書いてまとめること。 <事前学習>自身でパソコンの立ち上げログインから、文字の入力まで（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）</p> |
| 3 | ネットを活用して調べる（ICT機器の活用） | <p><学習内容>ホームページの閲覧方法と、インターネット（ネットワーク）の仕組み ネット上の危機管理と、情報リテラシーについて <事前学習>自身で行っているセキュリティ対策とコンピュータを活用して何が出来るかを考えておく（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）</p> |
| 4 | 電子メール | <p><学習内容>メール設定（学内PC Office365 Outlook） メールの仕組みを学ぶ。 課題メール送信（メールの送受信） <事前学習>自分の学内メールアドレス（パスワード等）を確認（0時間） <事後学習>最初は資料を見ながら、後に見ずにメールを送受信できるように復習すること（0.5時間）※授業内で課題メールが送信できなかった人は授業後にも送信すること。</p> |
| 5 | 印刷・レイアウト、ファイルのやり取り | <p><学習内容>ファイルの保存方法 印刷カラープリント（プリンター）使い方 USBメモリや外部ストレージ、クラウド、オンラインストレージなどの違い。オンラインストレージ（OneDrive）パソコン及び、スマホデータの共有方法 <事前学習>講義2回目の、データの保存方法や保存先を復習（0.5時間） <事後学習>パソコンのデータの保存先、またデータの場所を理解する（探せる）（0.5時間）</p> |
| 6 | グラフィックスー 情報メディア・画像加工について | <p><学習内容>パソコンの画像について（種類やファイル形式） パソコンのデータを学ぶ（容量や拡張子など） 画像のサイズ変更、用途により画像の種類（形式）を変更（比較）する。 <事前学習>パソコンのデータファイルの見方（プロパティ）を調べておく（0.5時間） <事後学習>講義で聞いた要点、データの種類や容量単位を復習すること（0.5時間）</p> |

| | | |
|----|------------------------|---|
| 7 | 文書整形 1 | <p><学習内容>メモ帳を利用し、テキスト形式で文字入力。 Microsoft Officeソフト Word (文章作成ソフト) 基礎 (文字入力、コピーペースト、均等割り付け、タブ設定など) <事前学習>文字の入力(ローマ字など)や文字切り替え、キーボード操作ができていないこと (0.5時間) <事後学習>簡単な操作など、パソコンに慣れ始めるころ、ショートカットキーを復習、習得すること (0.5時間)</p> |
| 8 | 文書整形 2 (画像を組み合わせる) | <p><学習内容>Wordへの画像(写真・イラスト)の差し込みや地図の作成、飾り、回り込み、印刷し提出、データ提出まで ショートカットキーを習得※資料配布 <事前学習>ショートカットキーが何も見ずに習得できていること (0.5時間) <事後学習> これより毎回講義の課題は提出。データの保存から、所定の場所へ提出するスキルを復習。(0.5時間)</p> |
| 9 | 文書整形 3 (表や他ソフトとの連携) | <p><学習内容>Wordへのテキストボックス、表組み、罫線、簡単な計算表によるレイアウト作業(画像・テキストを配置) ショートカットキー※小テストあり <事前学習>Wordの立ち上げ方から、保存したデータの開き方、前回までの作業を復習しておくこと (0.5時間) <事後学習>これまでのWordの課題を、自分一人で作業できるように、やり方などをノートにまとめ、実際に作業を復習しておく (1時間)</p> |
| 10 | データ処理 1 | <p><学習内容>Microsoft Officeソフト Excel (表計算ソフト) 基礎 (オートフィル、数式のコピー、表示形式) <事前学習>Wordでも作業した表の「行・列・セル」の違いを復習しておく (0.5時間) <事後学習>授業中要点のExcelの基本的な操作を再度自分で復習しておく (0.5時間)</p> |
| 11 | データ処理 2 | <p><学習内容>Excelを利用し表の作成、簡単なレイアウト作業 (計算、平均値など) 実習応用で名簿や、栄養管理票、統計表などを作成。 <事前学習>コピーペーストやショートカット、オートフィルの機能操作をマスターしておくこと (0.5時間) <事後学習>本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する (0.5時間)</p> |
| 12 | データを組み込んだ文書の作成 | <p><学習内容>Excelグラフの作成 (円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更) グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。 <事前学習>数学での表グラフの特性(X, Y軸, +, -の値)を復習しておく (0.5時間) <事後学習>本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する (0.5時間)</p> |
| 13 | Excel課題作成 | <p><学習内容>Excelを使用し、カレンダーを作成 (課題の作成から、印刷、提出まで) <事前学習>Excelの立ち上げ方から、保存したデータの開き方、前回までの作業を復習しておくこと (0.5時間) <事後学習>これまでのExcelの課題を、自分一人で作業できるように、やり方などをノートにまとめ、実際に作業を復習しておく (1時間)</p> |
| 14 | プレゼンテーション (PowerPoint) | <p><学習内容>Microsoft Officeソフト PowerPoint (プレゼンテーションソフト) 基礎 (文字や写真、イラストの配置) 見栄えの良いカトラリー (課題) を作成する。 <事前学習>Word, Excelへの画像の貼り付け方、テキストボックスの使い方を復習しておく (0.5時間) <事後学習>本日の講義の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する (0.5時間)</p> |
| 15 | 試験対策 (総復習) | <p><学習内容>統括実習 (WordへExcel表データを組み込むなど) <事前学習>全ての配布物、講義の要点、ノートをまとめる。※欠席などで不足が無いかなど (0.5時間) <事後学習>※これまでの授業で提出した課題のデータをまとめる。わからない個所などを質問し、試験に向けて復習する。(2時間)</p> |

| | | | |
|----|----|--|--|
| 16 | 試験 | | |
|----|----|--|--|

| | | | | | | | | |
|--|--|---|---------|----------------|-----------|--------|--------------------|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 食にかかわる化学 | | 都築 廣久 | | 1 | 前期 | 講義 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1105 | | |
| | | 担当教員 | 都築 廣久 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | 原子 | 化学は、様々な物質の構造・性質、物質相互の反応を研究する自然科学の一つの分野で、物質が何から、どのような構造で出来ていて、どのような特徴や性質を持っているか、さらにはこれらの物質の相互作用や反応を通してどのように物質に変化するかを学ぶ学問である。本講義では、今後栄養士の専門分野を学んでいく中で必要な化学の基礎をしっかりと身につけるとともに、特に食品や栄養に関する分野で役立つ知識について解説する。 | | | | | | |
| 2 | 分子 | | | | | | | |
| 3 | 電子 | | | | | | | |
| 4 | 化学結合 | | | | | | | |
| 5 | 化合物 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | |
| 1. 化学物質の構成（原子構造、元素の周期表、化学結合）を説明することができる。 | | | | | | | | |
| 2. 化学物質の量的関係（原子量、分子量、モル、濃度）について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 食品に含まれる身近な化学物質の種類、特徴、働きについて説明することができる。 | | | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | | 定期試験 | | | 受講態度 | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | | 80 | | | 20 | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | | F | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | | 受験資格なし (出席回数不足) | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | | 0 | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | | | |
| A | 講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | | | |
| B | 講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | | | |
| C | 講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 試験終了後、模範解答とコメントを返却するので確認して返答すること。 | | | | | | | | |
| 【教科書】 | | | | | | | | |
| 『ていねいな化学』白戸 亮吉、小川 由香里、鈴木 研太著 羊土社 | | | | | | | | |

| | | |
|---|-----------------------------|--|
| 【参考書・参考資料等】 『楽しみながら分かるようになる化学』吉野 公昭著 理工図書 『化学の基礎』中川 徹夫著 化学同人 | | |
| 【関連科目】 「基礎栄養学」「応用栄養学」「食品学総論」「食品学各論」「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」 | | |
| 【受講心得】 日頃から食品の化学成分に関心をもつこと。 | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | 物質の構成と原子構造（1） 物質の構成 | <p><学習内容>初回の授業であるため、化学の基本である「物質は何からできているか」（原子と元素、人体を構成する元素、人体を構成する化合物）を中心に説明する。</p> <p><事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）と教科書（教科書 p12～p17）に目を通しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 2 | 物質の構成と原子構造（2） 原子構造と周期表 | <p><学習内容>原子の構造（原子核、陽子、中性子、電子）、原子番号、質量数、電子配置、周期表、族と周期、典型元素、遷移元素などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p20～p29)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 3 | 化学結合（1） イオン同士の結びつき、イオン結合 | <p><学習内容>イオン同士の結びつき、イオン結合、原子間の電子の受け渡し、イオン結晶などを中心に、イオン結合でできている物質などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p34～p37)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 4 | 化学結合（2） 原子同士の結びつき、共有結合 | <p><学習内容>共有結合、電気陰性度、極性、分子間力、水素結合、ファンデルワールス力、分子結晶、共有結合の結晶などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p40～p49)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 5 | 化学結合（3） 金属同士の結びつき、イオン結合 | <p><学習内容>金属同士の結びつき、金属結晶内の価電子（自由電子）、金属結合、金属結晶、化学結合の種類、構成元素、構成粒子、化学式、物質例などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p53～p55)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 6 | 物質量（1） 原子量、分子量、式量 | <p><学習内容>原子の質量、相対質量（相対原子質量）、絶対質量、原子量の求め方、分子量と式量が示す内容、式量の求め方、などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p58～p61)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 7 | 物質量（2） 物質量と化学反応式 | <p><学習内容>物質量、モル質量、アボガドロの法則、密度、溶媒、溶質、溶液、質量パーセント濃度、モル濃度、化学反応式などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p64～p71)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当する当ページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |

| | | |
|----|---------------------------|--|
| 8 | 酸と塩基、酸化還元反応（1） 酸と塩基 | <p><学習内容>酸と塩基の定義、酸と塩基の価数、酸・塩基の電離、水の電離、酸性・中性・アルカリ性、pH（水素イオン指数）、中和反応、中和滴定などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p77～p88)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 9 | 酸と塩基、酸化還元反応（2） 酸化還元反応 | <p><学習内容>酸化と還元3つの定義、酸化数とその求め方、酸化剤・還元剤、金属のイオン化傾向、金属の溶解、さびなどを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p92～p100)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 10 | 酵素反応と酸塩基平衡（1） 酵素反応 | <p><学習内容>化学反応による熱の出入り、活性化エネルギー、密度・温度・圧力と反応速度、酵素の役割、酵素反応、基質特異性、酵素活性、補因子などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p105～p111)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 11 | 酵素反応と酸塩基平衡（2） 体液の酸塩基平衡 | <p><学習内容>化学平衡の方向性（可逆反応、化学平衡、不可逆反応）平衡状態、pHの働きをやわらげる働き（緩衝作用）などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p114～p120)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 12 | 生体を構成する物質（1） 有機化合物 | <p><学習内容>体と有機化合物、炭化水素の分類（鎖状・環状、鎖式炭化水素、環式炭化水素）、ベンゼン環、官能基による分類、あらかし方などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p123～p129)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 13 | 生体を構成する物質（2） 糖質 | <p><学習内容>エネルギー源、単糖（構造異性体、立体異性体）、二糖（マルトース、スクロース）、多糖（デンプン、グリコーゲン）の構造と性質などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p132～p145)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 14 | 生体を構成する物質（3） 脂質 | <p><学習内容>脂質、脂肪酸（分類、n-6(ω6)系とn-3(ω3)系、必須脂肪酸、脂質の種類（単純脂質、複合脂質）、リポタンパク質（種類、運搬）などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p148～p156)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 15 | 生体を構成する物質（4） タンパク質 | <p><学習内容>アミノ酸（分類、鏡像異性体、性質、等電点）、タンパク質（ペプチド結合、ペプチド、ポリペプチド鎖）、四次までの立体構造などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p159～p172)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。（1.0時間）</p> |
| 16 | 試験 | |

| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
|--|---|--------|---------|----------------|-----------|----------------|
| 世界の食文化 | 三浦 裕子 | 1 | 通年 | 講義 | 選択 | 2 |
| | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1106 | |
| | 担当教員 | 三浦 裕子 | | | | |
| 【キーワード】 | 【概要】 | | | | | |
| 1 歴史 | 調理学で学ぶ料理や菓子、及び現代の日本で親しまれている料理や菓子を手がかりに、食を文化として捉えることを学ぶ入門講座。食が歴史や風土、及び文化的な背景によって形作られていることを理解し、調理技術や栄養面とは違う視点から食を考える。 | | | | | |
| 2 風土 | | | | | | |
| 3 調理法 | | | | | | |
| 4 味覚 | | | | | | |
| 5 境界 | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| 1. 和食の成り立ちを考える。 | | | | | | |
| 2. フランス、イタリアを中心とした欧風料理、及び中国料理とエスニック料理の概要を理解する。 | | | | | | |
| 3. 試食、そしてそのレポートを通して、自分の言葉で味わいを表現する力をつける。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | ○ |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | ○ |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | ○ |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | |
| 成績指標 | レポート・授業態度 | | | 試験 | | 合計 |
| 評価割合 (%) | 50% | | | 50% | | 100 |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし(出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | |
| S | 講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | |
| A | 講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | |
| B | 講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | |
| C | 講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方 | | | | | | |
| レポートで提起された問題を講義で反映させ、皆で議論する。 | | | | | | |

| | | |
|--|---------------------|--|
| 【教科書】 『和食手帖』 思文閣出版 | | |
| 【参考書・参考資料等】 『先史から現代まで 食事の歴史』 東洋書林 | | |
| 【関連科目】 「調理学」 | | |
| 【受講心得】 授業は双方向であることを心がけるため、積極的に自分の意見を述べ | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | 食文化・はじめに。及び食意識のレポート | <学習内容>食を歴史、風土、文化的な背景から捉えるという食文化のガイダンス。食意識のアンケート実施。 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 2 | 「おいしい」だけではない食べ物の捉え方 | <学習内容>博多の伝統菓子「鶏卵素麺」を試食し、味覚の背景にある食べ物の意味を考える。 <事前学習> (0時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 3 | 和食の歴史・16世紀まで | <学習内容>和食の成り立ちを捉える上で必要な、和食の歴史を大づかみで学ぶ。前編 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 4 | 和食の歴史・江戸時代から現代まで | <学習内容>和食の原型が出来上がる江戸時代以降の歴史を大づかみで学ぶ。上生菓子と大福を試食。レポート。 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 5 | 和食の捉え方 | <学習内容>現代の和食を構成する、料理職人の料理と家庭料理などについて考える。松花堂弁当試食。レポート。 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 6 | 和食と和風 | <学習内容>和風料理を通して、料理の境界を考える。和洋折衷の料理、あるいは菓子の試食。レポート。 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |
| 7 | 洋食の捉え方 | <学習内容>イタリアとフランスの食の歴史を大づかみで理解し、洋食への理解を深める。 <事前学習> (1/2時間) <事後学習> (1/2時間) |

| | | |
|----|------------------------|---|
| 8 | 中国料理とエスニック料理の捉え方 | <p><学習内容>中国料理とエスニック料理の成り立ちを大づかみで理解する。代表的なフランス菓子と中華点心を試食。レポート。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 9 | 各国料理 | <p><学習内容>イタリア、フランスだけではない欧風料理、またアジアの料理について考える。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 10 | 欧風料理・オーストリアを例にとって | <p><学習内容>オーストリアのカフェの形態を持つ「サイラー」を訪問し、オーストリア風の昼食を試食。レポート。</p> <p><事前学習> (0時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 11 | 行事食 | <p><学習内容>日本を中心に行事食を考える。祭事の菓子または月見の菓子などの試食。レポート。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 12 | 器とマナーについての基礎知識 | <p><学習内容>料理と器、そしてマナーを歴史的な観点から考える。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1時間)</p> |
| 13 | 福岡における時代の先端をおくレストランを訪問 | <p><学習内容>例えば、進化したイタリア料理を提供する「なかがわ」を訪問、試食。</p> <p><事前学習> (0時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 14 | 現代の日本の食を考える | <p><学習内容>訪問したレストランのレポート。そこで提起された問題を議論する。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 15 | 食文化のまとめ | <p><学習内容>食を文化として捉えることについてのまとめ。</p> <p><事前学習> (1/2時間)</p> <p><事後学習> (1/2時間)</p> |
| 16 | 試験 | |

| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
|--|---|-------------|---------|----------------|-----------|----------------|
| 英語コミュニケーション | ストイコビッチ ボジダ | 1 | 前期 | 演習 | 選択 | 2 |
| | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1107 | |
| | 担当教員 | ストイコビッチ ボジダ | | | | |
| 【キーワード】 | 【概要】 | | | | | |
| 1 英語で考える | 積極的にクラスアクティビティに参加し、簡単な英会話から始めることにより、コミュニケーションスキルの向上を目指します。あなたにとって興味のある分野について、相手に英語で伝えることができれば、世界が広がります。さあ、楽しみながら学びましょう。 | | | | | |
| 2 英語で話す | | | | | | |
| 3 新しく習った単語を使って文章を書く | | | | | | |
| 4 発音を意識する | | | | | | |
| 5 間違いを恐れない | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| 1. 英語でのコミュニケーションを楽しむことができる。 | | | | | | |
| 2. 英語に自信を持つことができる。 | | | | | | |
| 3. 英語で単純な会話ができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | |
| 成績指標 | 発表 | 課題提出 | 定期試験 | 合計 | | |
| 評価割合 (%) | 30 | 30 | 40 | 100 | | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし(出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | |
| S | 授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | |
| A | 授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | |
| B | 授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | |
| C | 授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | |
| 試験後に解答の解説をする。 | | | | | | |

| 【教科書】 制作した教材を使用 | | |
|--|-----------|---|
| 【参考書・参考資料等】 授業内で配布されるプリント等 | | |
| 【関連科目】 | | |
| 【受講心得】 授業内においては、常に英語で話すこと。日本語は許可した場合のみとする。失敗を恐れず、「失敗は成功のもと」という気持ちを持って臨むこと。 | | |
| 【備考】 卒業選択必修 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 自己紹介（お互いを知る） Getting to know each other | | <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・相手の自己紹介に対する返事 ・クラスで役立つフレーズ（便利な言い回し） 《事前学習》シラバスを読んでくる（30分程度） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 2 家族について Talking about FAMILY | | <ul style="list-style-type: none"> ・家族や親せきの紹介の仕方 ・家系図の作成 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 3 動詞の働きについて WORK ACTIVITIES | | <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了や単純過去時制について ・can and can't できる・できないなどの動詞の使い方 ・自分の経験について語る 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 4 からだについて Talking about BODY | | <ul style="list-style-type: none"> ・からだの部位 ・病気と健康について ・健康である為のアドバイス（伝え方） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 5 スポーツについて Talking about SPORTS | | <ul style="list-style-type: none"> ・道具を用いてのスポーツ種目の説明 ・スポーツの説明 ・運動の能力 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 6 動物について（肉・魚） Talking about ANIMALS(MEAT and FISH) | | <ul style="list-style-type: none"> ・海や牧場、野生動物の名前 ・比較級と最上級 ・形容 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 7 果物と野菜について Talking about FRUITS and VEGETABLES | | <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な果物と野菜の名前 ・原産地について ・ショッピングリストの作成 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |

| | | |
|----|---|---|
| 8 | 食べ物・飲み物のメニュー、注文の仕方 Talking about FOODS and DRINKS. HOW to ORDER | <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な食べ物と飲み物 ・好きな食べ物・飲み物 ・ファーストフード店（レストラン）での注文の仕方 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 9 | 道具、調理方法、マナー THE EQUIPMENT COOKING METHODS TABLE MANNERS | <ul style="list-style-type: none"> ・食器などの道具について ・調理方法 ・テーブルマナー ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 10 | 数字・お支払いについて Talking about NUMBERS. How to PAY. | <ul style="list-style-type: none"> ・序数や基数についての確認 ・電話番号（緊急時等の連絡先）や住所の伝え方、聞き方、確認の仕方 ・お支払いの仕方 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 11 | カレンダーについて Talking about the CALENDAR | <ul style="list-style-type: none"> ・月と曜日 ・大事な行事を共有（話し合い） ・世界の様々な一年の行事 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 12 | 時間について、予約（キャンセル）の仕方 Talking about TIME. Talking RESERVATIONS. | <ul style="list-style-type: none"> ・時間の聞き方、答え方 ・日常生活の説明 ・何かに対する頻度の度合い ・予約（キャンセル）の仕方 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 13 | 世界各国について AROUND THE WORLD（世界一周） | <ul style="list-style-type: none"> ・国籍や言語 ・世界遺産 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 14 | 街の風景 AROUND THE TOWN | <ul style="list-style-type: none"> ・道のたずね方 ・案内の仕方（徒歩の場合） ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 15 | 最終準備と課題発表 Final Preparation & Project Presentation | レビューと統合 ≪事前学習≫前回習った所を見直す（週1時間） ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間） |
| 16 | Final Exam | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--|---------|---------------|-----------|--------|----------------|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 外国語（ハングル） | | 金 京姫 | | 1 | 前期 | 演習 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1108 | | |
| | | 担当教員 | 金 京姫 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | ハングルの理解 | 韓国語の言語能力及び韓国文化への理解と、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。 | | | | | | |
| 2 | 語彙の暗記 | | | | | | | |
| 3 | 自己紹介 | | | | | | | |
| 4 | コミュニケーション | | | | | | | |
| 5 | 異文化理解 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | |
| 1. 韓国語の文字の習得と文字の正しい発音ができる。 | | | | | | | | |
| 2. 自己紹介、簡単な意思伝達ができる。 | | | | | | | | |
| 3. 韓国の社会や文化について理解し、説明できる。 | | | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | 定期試験の成績 | | 小テスト | | 受講態度等 | | 合計 | |
| 評価割合（％） | 40 | | 30 | | 30 | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | | F | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満した成績 | 合格に至らない成績 | | 受験資格なし（出席回数不足） | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | | 0 | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | | | |
| A | 授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | | | |
| B | 授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | | | |
| C | 授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 授業の中で小テスト等の解説 | | | | | | | | |

| | | |
|---|-----------|---|
| 【教科書】 | | |
| 『スマート韓国語』 著者名：金 京姫・金 成妍・姜 信一 出版社：白帝社（2014年） | | |
| 【参考書・参考資料等】 | | |
| 韓日、日韓辞書 | | |
| 【関連科目】 | | |
| 【受講心得】 | | |
| 1. 遅刻・欠席をしないこと。 2. 予習復習に徹底すること。 | | |
| 【備考】 | | |
| 卒業選択必修 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 第1部 ハングルの概要、基本母音字 | | <学習内容>本授業の進め方及び韓国語の概要について説明する。ハングルの「あ行」「や行」、ハングルの仕組み、母音字を覚える。 <事前学習>事前にシラバスに目を通しておく。（10分） <事後学習>母音、半母音字を覚える。（1時間） |
| 2 基本子音字Ⅰ | | <学習内容>文化授業① 母音、半母音字の復習をする。基本子音字を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>基本子音字を暗記する。（1時間） |
| 3 基本子音字Ⅱ | | <学習内容>文化授業② ハングルの濁り音を理解し、語彙の発音練習と暗唱。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>音読練習と単語を覚える。（1時間） |
| 4 激音と濃音 | | <学習内容>文化授業③ 激音と濃音の発音要領と単語を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>激音と濃音の語彙を覚える。（1時間） |
| 5 合成母音字 | | <学習内容>文化授業④ ハングルの「わ行」：合成母音を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>合成母音の語彙と覚える。（1時間） |
| 6 終音（パッチム） | | <学習内容>文化授業⑤ ハングルの「ん」と「っ」、パッチムの説明と発音練習。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>パッチムの発音練習と語彙を覚える。（1時間） |
| 7 文字の復習 | | <学習内容>文化授業⑥ パッチムの発音練習と復習、発音変化について説明する。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>文章の読みができるように練習。（1時間） |

| | | |
|----|-------------------|---|
| 8 | 第2部、第6課私は木村と言います。 | <p><学習内容>文化授業⑦ かしまった丁寧な表現、自己紹介の文章の音読練習と簡単な文法事項を説明する。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>6課の練習問題を解く。(1時間)</p> |
| 9 | 第6課私は木村と言います。 | <p><学習内容>文化授業⑧ 6課、練習問題の答え合わせと自己紹介文の練習 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>自己紹介文の暗唱すること。(1時間)</p> |
| 10 | 第7課 スープは左ではありません。 | <p><学習内容>文化授業⑨ かしまった否定表現、第7課、本文の音読練習と文法事項の説明 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>練習問題を解いてくる。(1時間)</p> |
| 11 | 第7課 スープは左ではありません。 | <p><学習内容>文化授業⑩ 7課、練習問題の答え合わせと本文の暗唱 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>7課の本文会話を暗唱すること。(1時間)</p> |
| 12 | 第8課 おじさんではありません。 | <p><学習内容>文化授業⑪ 8課、本文の音読練習と文法事項の説明。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>8課、練習問題を解いてくること。(1時間)</p> |
| 13 | 第8課 おじさんではありません。 | <p><学習内容>文化授業⑫ 8課、練習問題の答え合わせと本文の暗唱。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>8課、本文の暗唱。(1時間)</p> |
| 14 | 自己紹介 | <p><学習内容>文化授業⑬ 各自、自己紹介文を作る。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>各自作自己紹介文を暗唱すること。(1時間)</p> |
| 15 | 総復習と会話テスト | <p><学習内容>文化授業⑭、自己紹介の発表とこれまでの授業のまとめ <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>期末試験に備えること。(3時間)</p> |
| 16 | 期末試験 | |

| | | | | | | |
|----------|--------|-------|----|--------|--------|-----|
| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 外国語（日本語） | 平嶋 一臣 | 1 | 前期 | 演習 | 選択 | 2 |
| | 担当形態 | 単独 | | ナンバリング | FN1109 | |
| | 担当教員 | 平嶋 一臣 | | | | |

| | |
|----------------|--|
| 【キーワード】 | 【概要】 |
| 1 言葉 | 日本語の「話し言葉」と「書き言葉」を明確に区別し、文法的に正しく美しい日本語の習得を目的とする。また、日本語作文における、文型・句読点・段落等の構成について理解し、文章作成の基礎・基本を学ぶ。 |
| 2 読む | |
| 3 書く | |
| 4 聴く | |
| 5 話す | |

| |
|---|
| 【到達目標】 |
| 1. 日本語の基本的な用語を使い、自分の伝えたいことを文章化することができる。 |
| 2. 「読む」「書く」「聴く」「話す」の基本を総合的に向上させ、正しい日本語で基本的な文章を書くことができる。 |
| 3. 文章作成の基本を踏まえ、1200字程度の論説文を書くことができる。 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | 関連性 |
|------------------------------|-----|

| | |
|-------------------|--|
| 【知識・理解・技能】 | |
|-------------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | |

| | |
|-------------------|--|
| 【思考・判断・表現】 | |
|-------------------|--|

| | |
|--|---|
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | |

| | |
|-------------------|--|
| 【関心・意欲・態度】 | |
|-------------------|--|

| | |
|---------------------------------------|--|
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | |

| |
|------------------|
| 【成績評価の方法】 |
|------------------|

| | | | | |
|----------|------|------------|------|-----|
| 成績指標 | 定期試験 | 毎回の課題提出と内容 | 受講態度 | 合計 |
| 評価割合 (%) | 40 | 30 | 30 | 100 |

| |
|------------------|
| 【成績評価の基準】 |
|------------------|

| | | | | | | |
|----|---------|--------|---------|----------------|-----------|----------------|
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし(出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |

| | |
|----|-------|
| 評語 | 評価の基準 |
|----|-------|

| | |
|---|--|
| S | 授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 |
| A | 授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 |
| B | 授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 |
| C | 授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 |

| | | |
|--|-----------|---|
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。 | | |
| 【教科書】 『留学生の為の論理的な文章の書き方』 二通信子・佐藤不二子 平嶋 一臣 著・編『講義資料』より 必要に応じてプリント・配布する。 | | |
| 【参考書・参考資料等】 授業中に指示する | | |
| 【関連科目】 「文章表現法」 | | |
| 【受講心得】 疑問点は直ちにその場で質問し解決できるように努めること。また、積極的に授業に参加し、課題等の提出期限を守ること。 | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・<事後学習>（学習時間） |
| 1 ひらがなの成り立ち、文章の中での使われ方を知る | | <学習内容>ひらがな・カタカナの成り立ちを、漢字との関係から学び、文章の中での使い方の幅を広げる。 <事前学習>（1時間）：シラバスや授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |
| 2 日本語の特質① | | <学習内容>主語と述語を中心に文章の様々な組み立て方を学び、実際に身近な出来事をテーマに文章化する。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |
| 3 日本語の特質② | | <学習内容>形容詞・形容動詞・助動詞・助詞の使われ方を、様々な文例集から学び、最近の出来事をテーマに文章化する。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |
| 4 日本文化と言語や文章の成り立ち① | | <学習内容>日本独自の言語表現である和語（大和言葉）の様々な使われ方を知る。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |
| 5 日本文化と言語や文章の成り立ち② | | <学習内容、実際の生活を想定し、和語（大和言葉）の正しい使い方を学ぶ。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |
| 6 新聞のコラムを読む①原稿を書く際の約束 | | <学習内容>子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や原稿を書く際の注意点を学ぶ。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。 |

| | | |
|----|----------------------------|---|
| 7 | 新聞のコラムを読む②組み立て方 | <p><学習内容>子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や分かり易く伝えるための段落について学ぶ。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 8 | コラムや社説を要約する | <p><学習内容>新聞の社説やコラムを教材に、筆者の伝えたいことや要点をまとめる。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 9 | レポートを書く (事実・参考意見・資料) | <p><学習内容>最近の出来事を取り上げ、自分としての意見を主張する文章を書く。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 10 | レポートを再考する (文型、句読点、段落ほか) | <p><学習内容>前時で書き上げた文章を、グループディスカッションし、分かり易く主張がはっきりした文章に練り上げる。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 11 | 話し言葉と書き言葉について① | <p><学習内容>「話し言葉」と「書き言葉」の違いを具体例を基に学び、その使い分けの大切さを知る。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 12 | 話し言葉と書き言葉について② | <p><学習内容>これまで自分が書いた文章の中で、「話し言葉」で書いている例を挙げ、これを正しい文章に書き直す。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 13 | コラムや社説に対して自分の考えをまとめる① | <p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、これについての自分の意見をまとめ文章化する。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 14 | コラムや社説に対して自分の考えをまとめる② | <p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、自分の意見をまとめグループ間で発表し批評する。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |

| | | | |
|-----|----------------------|--|---|
| 1 5 | これまでの学びについて要点を絞り発表する | | <p><学習内容>これまでの学びの集大成として、『日本語を学んで』をテーマに1200字にまとめ発表する。</p> <p><事前学習> (1時間) :授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間) :授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> |
| 1 6 | 試験 | | 15回の学びの成果を客観視するための試験 |

| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
|--|--|---------------------|-----------|----------------|-----------|----------------|
| インターンシップ | 松藤 泰代 | 1 | 通年 | 実習 | 選択 | 2 |
| | 担当形態 | 複数 | ナンバリング | | FN1110 | |
| | 担当教員 | 松藤 泰代 宅間 真佐代 下村 久美子 | | | | |
| 【キーワード】 | 【概要】 | | | | | |
| 1 職業人 | 本実習は、自分の専門、将来のキャリアに関連した施設や企業等において、栄養士や保育士または、社員の方からの指導のもと、各施設や企業で実際に就業体験を行うものである。就業体験を通じて職業人・社会人として何が必要かを知り、自分の将来の方向性を明確に意識することを目的とする。受け入れ施設・企業等での就業体験と、学内での事前・事後の学習より構成される。 | | | | | |
| 2 就業体験 | | | | | | |
| 3 社会人 | | | | | | |
| 4 自己管理 | | | | | | |
| 5 責任感 | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| 1. 将来の職業について関心を持ち、働くことの意味とイメージを持つことができる。 | | | | | | |
| 2. 自己管理の重要性を理解し、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。 | | | | | | |
| 3. 仕事を円滑に進めるために必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | ○ |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | ○ |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | ○ |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | ○ |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | ○ |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | ○ |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | ○ |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | ○ |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | |
| 成績指標 | 実習施設からの評価 | 取り組み姿勢 | 研修日誌等の提出物 | 合計 | | |
| 評価割合 (%) | 50 | 25 | 25 | 100 | | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし(出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | |
| S | 積極的に取り組み内容を十分に理解しており、提出物の記述内容が的確である。 | | | | | |
| A | 取り組み内容を十分に理解しており、提出物の記述内容が十分である。 | | | | | |
| B | 取組み内容を総じて理解しているが、提出物の記述内容が不十分である。 | | | | | |
| C | 取組み内容の概要を理解しており、提出物の記述内容が最低限の評価が可能である。 | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | |
| 提出物等は、内容に不備がある場合は添削後に再提出、返却を繰り返す。 | | | | | | |

| | | |
|--|-----------------|---|
| 【教科書】 | | |
| 特に指定しない。適宜資料を配布する。 『学内インターンシップ研修日誌』 | | |
| 【参考書・参考資料等】 | | |
| 『給食のための基礎からの献立作成ー調味の基本から評価まで』 上地加容子・片山直美編 『Nブックス 給食の運営ー栄養管理・経営管理』 逸見幾代著 建帛社 | | |
| 【関連科目】 | | |
| 栄養士課程科目、「ビジネスマナー」、「コンピュータ演習」 | | |
| 【受講心得】 | | |
| 明確な目的と高い意欲を持っていること。「就業」の実習であることを理解し責任を持って行動する。 | | |
| 【備考】 | | |
| インターンシップは、純真レストラン及び純真保育園など学内施設での就業体験を含む。 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 オリエンテーション | 松藤 宅間 下村 | <学習内容> インターンシップは、各企業および施設において、専門職としての「就業体験」の実習を行うために各研修プログラムが計画されています。学内では、事前に企業研究や研修中から研修終了後の一連の流れを説明します。 <事前学習> 施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習しておくこと。（1.0時間） <事後学習> 実習に向けての内容の復習しておくこと。（1.0時間） |
| 2 事前指導① | | |
| 3 事前指導① | | |
| 4 実習（インターンシップ） | 実習先 の 指導者 | <学習内容>各企業および施設において、専門職としての「就業体験」の実習を行う。 質の高い知識や技術・技能とともに、社会人としての基本など各研修プログラムの実施。 <事前学習> 実習施設において実習内容の予習をしておくこと。（1.0時間） <事後学習>実習内容の復習をしておくこと。（1.0時間） |
| 5 ・企業・施設の概要および特質 | | |
| 6 ・社会人としての基本的業務 | | |
| 7 マナー・コミュニケーション能力 | | |
| 8 ・専門業務 | | |
| 9 専門的知識 | | |
| 10 専門的技術・技能 | | |
| 11 ・その他 | | |
| 12 *就業体験は、各企業・施設の研修プログラムに沿って行う。 | | |
| 13 *実習時間は1週間 | | |
| 14 事後指導 | 松藤 宅間 下村 | <学習内用>就業体験」の事後指導及び報告会を実施します。 <事前学習>就業体験のまとめをしておくこと。（1.0時間） <事後学習>学んだことの復習をしておくこと。（1.0時間） |
| 15 実習報告会 | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|---|---------|----------------|-----------|--------|--------------------|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| ビジネスマナー (食物栄養学科) | | 大石 紀子 | | 1 | 前期 | 演習 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1111 | | |
| | | 担当教員 | 大石 紀子 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | コミュニケーション | 1. 社会で必要とされる言葉づかいや立ち居振る舞いをはじめ、ビジネスマナー全般を座学だけでなく多くの演習をとおして習得することで、信頼される社会人となることを目指す。 また円滑な人間関係を築きあげ、仕事をしやすい環境を自らで作り上げることができることを学ぶ。 2. 就職活動に際して必要なマナーも習得する。 | | | | | | |
| 2 | 言葉づかい | | | | | | | |
| 3 | 応対 | | | | | | | |
| 4 | 電話応対 | | | | | | | |
| 5 | 文書作成 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | 1. 社会人として求められる心構えとビジネスマナーを理解し活用することができる。 2. 就職活動の際に必要なマナーを知り、内定に繋げる。 3. 「知っている」ではなく「常に実践できる」ことができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | ○ |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | | 定期試験 | | | 受講態度 | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | | 80 | | | 20 | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | | F | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | | 受験資格なし (出席回数不足) | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | | 0 | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | | | |
| A | 授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | | | |
| B | 授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | | | |
| C | 授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 試験終了後は模範解答をもとに間違えた箇所を見直し、正しいマナーを理解する。 | | | | | | | | |

| | | |
|--|------------------|--|
| 【教科書】 | | |
| 『よくわかる 自信がつくビジネスマナー』（改訂3版）著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社 | | |
| 【参考書・参考資料等】 | | |
| 補足資料として適宜プリント配布 | | |
| 【関連科目】 | | |
| 【受講心得】 | | |
| 授業中からマナーを意識し、社会人であるという心構えで受講して下さい。 講義中の演習は積極的に取り組みましょう。 | | |
| 【備考】 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | オリエンテーション | 【学習内容】 マナーを学ぶ意義について考えます。現段階で社会人基礎力の自己評価を行い、これからの授業における自分自身の課題（学びたいこと）を明確にします。 【事前学習】 テキストP5～P6を読み、マナーの必要性を考える。（0.5時間） 【事後学習】 初回の授業を振り返り、身に付けるべき力は何かを自分の課題として考える。 |
| 2 | 身だしなみ・挨拶・立ち居振る舞い | 【学習内容】 人に与える第一印象というのはとても重要です。印象の良し悪しがもたらすメリット・デメリットを考えながら、具体的に好感度を与える挨拶や立ち居振る舞いを実践形式で体得します。 【事前学習】 テキスト第1章P7～P22を読み、身だしなみについて知りたいこと（質問）を考えておく（0.5時間） 【事後学習】 日常生活のなかで実践する（常時） |
| 3 | 言葉づかいと敬語の基礎 | 【学習内容】 バイト敬語や不適切な言葉づかいなど日頃気が付かずにうっかり使って不快感を与えてしまう言葉が多くあります。これらの間違った言葉づかいを理解して、適切な言葉づかいができるように学びます。 【事前学習】 テキストP31～P35を読む（0.5時間） 【事後学習】 日常生活の中で実践する（常時） |
| 4 | 敬語の正しい使い方（1） | 【学習内容】 敬語にはいくつかの種類があります。相手や状況に合わせて適切な言葉づかいができるように事例を用いながら基本を学びます。 【事前学習】 テキストP36～P37を読む（0.5時間） 【事後学習】 テキストP41に記入して復習（0.5時間） |
| 5 | 敬語の正しい使い方（2） | 【学習内容】 基本編で学んだ内容を実際のようなシーンで活用できるように実践形式で学びます。また、上司や先輩から受けた指示の受け方や報告・連絡・相談の仕方についても社会人として受答えができるように学習します。 【事前学習】 テキストP42～P44を読む（0.5時間） 【事後学習】 テキストP45を活用して復習（0.2時間） |
| 6 | 電話応対（1） | 【学習内容】 社内での電話の取り次ぎ方など応対のポイントを実践を交えて学びます。 【事前学習】 テキストP85～P88を読み、実践問題の練習もしておく（0.5時間） 【事後学習】 テキストP97実践問題を解く（0.5時間） |

| | | |
|----|-----------------|--|
| 7 | 電話応対（2） | <p>【学習内容】 短時間で相手に用件をわかりやすく伝える電話のかけ方を練習します。仕事においては伝言を依頼する場合もありますから、トラブルに繋がらないように正確に伝えるポイントも学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP89～91を読む（0.5時間）</p> <p>【事後学習】テキストP101確認問題を解き復習をする（0.5時間）</p> |
| 8 | 就職活動に必要な電話のマナー | <p>【学習内容】 就職活動において企業と電話でやりとりをする機会が多くなります。大切な事項を聞き逃さず、また自分の伝えたいことも失礼のない言葉づかいで話せるように事例を使いながら学びます。</p> <p>【事前学習】特になし</p> <p>【事後学習】自分用の就活電話スクリプトを作る（0.5時間）</p> |
| 9 | 訪問のマナー | <p>【学習内容】 相手の会社への訪問時や来客時に必要なマナーを説明します。事前の準備や当日の心構え、応接室でのマナーなどを学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP61～P82を読んでおく（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストP83確認問題を解く（0.5時間）</p> |
| 10 | はがきの書き方 | <p>【学習内容】 日々の業務の中では文書を作成することが多々あります。文書作成の基本をはがきの作成をとおして学びます。</p> <p>【事前学習】特になし</p> <p>【事後学習】授業内で作成するはがきの完成（0.5時間）</p> |
| 11 | ビジネス文書 | <p>【学習内容】 前回の授業（はがき）で学んだことを基本に社内外で必要とされる文書作成を学び、実際に作成します。基本的な形式や表現を身に付けます。</p> <p>【事前学習】テキストP148～P154を読んでおく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】文書の完成（0.5時間）</p> |
| 12 | メールの知識と書き方 | <p>【学習内容】 メールは便利ですが小さなミス一つで周囲に多大な迷惑をかけてしまうこともあり、注意が必要です。ここでは書き方のポイントや基本的なマナーを学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP110～P112を読む（0.5時間）</p> <p>【事後学習】テキストP121を解いて復習する（0.5時間）</p> |
| 13 | 就職活動に必要なメールの書き方 | <p>【学習内容】 就職活動中に相手企業とメールのやりとりをする時の注意を説明し、具体的に作成します。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】実際に使えるように下書きを作る（0.5時間）</p> |
| 14 | 面接のマナーと面接礼状 | <p>【学習内容】 就職面接においてもマナーや印象は大切です。相手に好印象を与えるポイントを学び、また面接の礼状についても作成し活用実践で活用できるようにします。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】面接礼状を完成させる（0.5時間）</p> |

| | | |
|-----|--------------|--|
| 1 5 | 交流分析を使った自己理解 | <p>【学習内容】 良好な人間関係を築くためには良好なコミュニケーションが欠かせません。対人の際に自分にはどのような言動特性があるのかを自身で把握し、これからの役に立てます。</p> <p>【事前学習】 コミュニケーションについて自分の強みと弱みを考える (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 日常生活のなかで自分の課題を改善していく (常時)</p> |
| 1 6 | 試験 | <p>【学習内容】 これまでの総括。学んだ内容がどのくらい習得できているかをテストする。</p> <p>【事前学習】 全15回の復習をする (2時間～)</p> <p>【事後学習】 誤った箇所の見直し</p> |

| | | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|--|---------------|-----------|--------------------|-----|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 純真ゼミナールⅠ | | 都築 廣久 | | 1 | 前期 | 演習 | 必修 | 1 |
| | | 担当形態 | 複数 | ナンバリング | | FN1112 | | |
| | | 担当教員 | 福田 庸之助、食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、保坂 真紀、外部講師 | | | | | |
| 幼 | 科目 | | | | | | | |
| | 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | | | | | | | |
| 保 | 系列 | | | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | 学園訓 | 本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。 | | | | | | |
| 2 | 建学の精神 | | | | | | | |
| 3 | 気品 | | | | | | | |
| 4 | 知性 | | | | | | | |
| 5 | 奉仕 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | 1. テーブルマナーにより「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. 学士基礎力講座により「知性」を練磨させていくことができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | |
| 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | ○ |
| 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | |
| 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | 取り組み姿勢 | | | 課題・提出物 | | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | 60 | | | 40 | | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F | | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満した成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし (出席回数不足) | | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 | | |

| 評語 | 評価の基準 | |
|--|--|---|
| S | 各講座に極めて積極的に取り組み、課題・提出物にも必要な内容を的確に記述している。 | |
| A | 各講座に積極的に取り組み、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。 | |
| B | 各講座に積極的に取り組んでいるが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。 | |
| C | 各講座に取り組んでいるが、課題・提出物が必要最低限の内容の記述である。 | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。 | | |
| 【教科書】 特に指定しない。適宜資料を配付する。 | | |
| 【参考書・参考資料等】 特に指定しない。 | | |
| 【関連科目】 「純真ゼミナールⅡ」 | | |
| 【受講心得】 主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。 | | |
| 【備考】 卒業必修 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 学長講話 ～学園訓・建学の精神について～ | 福田 | <学習内容>本学園の学園訓、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」を紹介するとともに、学園を設立した福田昌子女史の想いについても触れる。 <事前学習>本学園の学園訓について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>学長講話の内容をレポートにまとめて提出すること。（1.0時間） |
| 2 知性を磨く講演会 ～博多学～ | 平嶋 | <学習内容>純真学園の位置する大橋・福岡・博多の歴史・地理・文化を知るとともに、郷土に愛着を持つ。 <事前学習>福岡・博多の歴史について、図書館などで事前に調べておく。大橋・筑紫丘周辺の神社仏閣を中心に散策する。（2.0時間） <事後学習>授業で紹介した以外の名所旧跡についても、時間を見つけて散策し、さらに郷土への愛着を深める。（4.0時間） |
| 3 キャリアガイダンス（1） ～外部講師講話～ | 松藤・外部講師 | <学習内容>キャリアガイダンスの第一回目であるため、就職活動の基本である「就職活動支援」と「労働法」を中心に説明する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>就職活動の基本に関する概要を復習しておくこと。（0.5時間） |
| 4 日本語検定講座 ～日本語検定試験対策講座～ | 都築 | <学習内容>6月に受検する特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級の概要を解説するとともに、練習問題に取り組む。 <事前学習>日本語検定試験4級について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。（1.0時間） |
| 5 ジェンダー ～お姫様とジェンダー～ | 石橋 | <学習内容>お姫様（白雪姫、シンデレラ、眠り姫など）で描かれる女性たちは王子様との出会いによってハッピーエンドを迎える。このような女性像に対してそれは文化的社会的につくられた見方だ（ジェンダー）という批判もある。このジェンダー観について考える。 <事前学習>白雪姫、シンデレラ、眠り姫の物語を読んで、そこで描かれる女性像について考えておくこと。（1.0時間） <事後学習>授業で配付した資料を参考にジェンダーについて考えること。（1.0時間） |

| | | | |
|----|------------------------|----|---|
| 6 | 世界の宗教 ～キリスト教とイスラム教～ | 石橋 | <p><学習内容>宗教の誕生と必要性について考え、世界宗教としてのキリスト教とイスラム教について考える。またこれらの教えの始まりや内容について概説する。</p> <p><事前学習>キリスト教とイスラム教について調べてくること。(1.0時間)</p> <p><事後学習>授業で配付した資料を参考にキリスト教とイスラム教について考えること。(1.0時間)</p> |
| 7 | ペン習字 (1) | 平嶋 | <p><学習内容>「美しい文字」と言われる漢字の特徴・ひらがな・片仮名の50音をリズム良く纏まり良く書けるようになる。</p> <p><事前学習>自分にとってまとまりがつきにくい、苦手な漢字・片仮名・ひらがなについて、あらかじめメモしておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>自分にとってまとめ方が苦手な漢字・ひらがな・片仮名を再度丁寧に練習しておく。(1.0時間)</p> |
| 8 | ペン習字 (2) | 平嶋 | <p><学習内容>漢字・ひらがな・片仮名の混じった文章のまとめ方を学び、実生活での必要な文面が書けるようになる。(挨拶文・年賀状その他)。</p> <p><事前学習>季節の挨拶文・年賀状など、実物または、図書館での資料を調べ、その基本形をまとめておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>自分にとって苦手な文字について何度も書き直し練習をしておく。(1.0時間)</p> |
| 9 | 日本語検定試験 | 都築 | <p><学習内容>6月に特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級(漢字、表記、敬語、言葉の意味、語彙、文法)を受検する。</p> <p><事前学習>日本語検定4級の過去問題とを調べておくこと。(1.0時間)</p> <p><事後学習>試験問題を振り返り復習をしておくこと。(1.0時間)</p> |
| 10 | 学士基礎力講座 (1) | 都築 | <p><学習内容>敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語)の種類と働き、言い表し方、複数の意味を持つ敬語、適切な遣い方、敬語の誤用について学ぶ。</p> <p><事前学習>敬語の種類を調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>場面に応じた敬語の正しい遣い方を復習しておくこと。(0.5時間)</p> |
| 11 | 学士基礎力講座 (2) | 都築 | <p><学習内容>可能動詞、受け身と使役、接続語、言葉の関係、類義語、対義語、多義語、慣用句、同音異義語、四字熟語について学ぶ。</p> <p><事前学習>類義語、対義語、同音異義語、四字熟語について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p> |
| 12 | テーブルマナー ～和食～ | 下村 | <p><学習内容>お箸の正しい使い方や器の取り方、各種料理のいただき方などを説明する。</p> <p><事前学習>食事の際に必要なマナーについて考えておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>学んだ作法を食事の際に活用しながら、基本的なマナーを身につけること。(0.5時間)</p> |
| 13 | テーブルマナー ～洋食～ | 宅間 | <p><学習内容>テーブルマナーとは何か、予約の仕方、服装、メニューの構成をはじめナフキン・カトラリーの扱い方をコース料理に沿って解説する。</p> <p><事前学習>授業の前に洋食のテーブルマナーについて調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>日常の食事をとおしてマナーが身につけられているか確認をすること。(1.0時間)</p> |
| 14 | 美術・アート鑑賞 | 難波 | <p><学習内容>現代の多様な芸術表現を鑑賞するなかで多様な価値観、考え方を学ぶ。また、アートセラピーについて学習する。</p> <p><事前学習>味のある作家や作品について調べておくこと。(1.0時間)</p> <p><事後学習>興味のある作家や作品について考えてみる。(1.0時間)</p> |

| | | | |
|----|---------------------|----|--|
| 15 | アーティスティック 絵画レッスン | 保坂 | <p><学習内容>講師の美術活動よりお勧めのオリジナル絵画技法を体験する。創造の世界を楽しみながら広げ、個々の豊かな活動につなげる。</p> <p><事前学習>様々な分野のアートに触れておく。 (1.0時間)</p> <p><事後学習>受講したことを個々の活動にどう反映できるか考えてみる。(1.0時間)</p> |
|----|---------------------|----|--|

| | | | | | | | | |
|---|--|---|---------|----------------|-----------|--------------------|-----|-----|
| 科目名 | | 担当代表教員 | | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
| 文章表現法 | | 平嶋 一臣 | | 1 | 後期 | 講義 | 選択 | 2 |
| | | 担当形態 | 単独 | ナンバリング | | FN1103 | | |
| | | 担当教員 | 平嶋 一臣 | | | | | |
| 【キーワード】 | | 【概要】 | | | | | | |
| 1 | 文脈と文章 | 授業計画に添い、さまざまな『文章表現』の方法を学ぶ。授業中は積極的に自己表現するための文章づくりの場を設定する。また、毎回の授業後400字～800字のレポート提出を求める（添削をして次週の授業で返却）。 | | | | | | |
| 2 | 国語表現 | | | | | | | |
| 3 | 日本語 | | | | | | | |
| 4 | 表現方法 | | | | | | | |
| 5 | 国語文法 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | |
| 1. 良い文章づくりのための『多読』『多作』『多思』の習慣を持つことができる。 | | | | | | | | |
| 2. 様々な文例を通して、より正確で分かり易い文章構成を行うことができる。 | | | | | | | | |
| 3. 自分の考えを、論理的な文章に組み立て、外に向かって積極的に表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | | | |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | | | |
| 成績指標 | | 定期試験 | | | 課題レポート | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | | 70 | | | 30 | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | | | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F | | |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満たした成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし (出席回数不足) | | |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 | | |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | | | |
| S | 講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。 | | | | | | | |
| A | 講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。 | | | | | | | |
| B | 講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。 | | | | | | | |
| C | 講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。 | | | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | | | |
| 毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。 | | | | | | | | |

| | | |
|---|---------------------|---|
| 【教科書】 | | |
| 平嶋一臣編・著『講義資料』より、必要に応じてプリント・配布する。 | | |
| 【参考書・参考資料等】 | | |
| 『日本語』 金田一春彦 岩波新書 『文章の書き方』 辰濃和男 岩波新書 | | |
| 【関連科目】 | | |
| 【受講心得】 | | |
| 授業に集中し、毎回時間内に小レポートを提出する。 また、意見発表に積極的に取り組むこと。進行状況により授業計画の一部変更もありうる。 | | |
| 【備考】 | | |
| 事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎回の授業に、平嶋式文章検定2級レベル・漢字検定2・3級レベルの小テストを計7分間挿入する。 また、授業後提出する400字～800字のレポートをもって当日の出席確認とする。 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | オリエンテーション・文章表現のさまざま | <学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明し、基本的な事前・事後の学習について説明する。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく（0.5時間） <事後学習>15回の講義要項の概要を確認しておく（0.5時間） |
| 2 | 日本語の成り立ちについて① | <学習内容>表音・表意のどちらも兼ねている特殊な国語である日本語の特徴を理解するとともに、国字の種類を知る。 <事前学習>漢字・国字の違いを調べ、あらかじめ国字について10個以上調べ、その成り立ちと特徴を調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間） |
| 3 | 日本語の成り立ちについて② | <学習内容>漢字を日本語読みにする時に起こる多拍化について理解するとともに、擬音語・擬態語の特徴を知る。 <事前学習>擬音語・擬態語を調べ、その成り立ち別に分類しておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間） |
| 4 | 日本語の特質を知る① | <学習内容>漢字発祥の中国をはじめ、西洋・米国から移入した文字に和語が重なって出来ていった、日本語の語彙の多さについて再確認する。 <事前学習>漢語・和語・外来語について、その意味と具体例を調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間） |
| 5 | 日本語の特質を知る② | <学習内容>自然と密接なつながりをもって成立していった日本語の特質および俳句・和歌などの関連を知る。 <事前学習>自然を詠った俳句・和歌について、人口に膾炙されているものを事前に調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間） |

| | | |
|----|--------------|--|
| 6 | 論理的な文章に学ぶ① | <p><学習内容>単文・複文の型を知るとともに「ねじれ文」の起こりやすい文章（場面）を再確認する。</p> <p><事前学習>（1時間）毎時返却された自分のレポートの中から、自分の文型の特徴を調べておく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 7 | 論理的な文章に学ぶ② | <p><学習内容>序破急・起承転結文など、論説文の基本型を学ぶとともに、これまでの自分の提出レポートは、相手に伝わりやすい文章だったのか、様々な角度から検証する。</p> <p><事前学習>毎時返却した自分のレポートを読み、朱書き添削された部分から、自分の文章の特徴に気づく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 8 | 論理的な文章に学ぶ③ | <p><学習内容>序破急・起承転結文のいずれかを選択し、与えられた課題について、600～800字程度でねじれ文の無い論旨明快な小論を書く。</p> <p><事前学習>図書館にある多くの書籍から小論を読み、参考になる小論構成について意見を持つ。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 9 | ビジネス文書の基本を学ぶ | <p><学習内容>日本語における敬語表現・ビジネス語表現の基本を知るとともに、具体的な使用方法について確認する。</p> <p><事前学習>ビジネス用語・ビジネス表現について、どのようなものが有るのか調べておく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 10 | 自己推薦文を書く | <p><学習内容>将来の就職試験を想定し、自己アピールのポイントを確認し、600字程度の自己推薦文を書く。</p> <p><事前学習>自分の長所・短所について様々な角度から分析し、自己推薦に繋げていくかを立案しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 11 | 手紙文に学ぶ | <p><学習内容>手紙文・葉書文の基本形式を知るとともに、実際の場面での使用方法について理解する。</p> <p><事前学習>これまでに受け取った手紙・葉書を読み直し、そこに見られる日本文の特徴を知っておく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 12 | エッセイに学ぶ | <p><学習内容>最近身の回りに起こった事例を再確認し、周りの友人にそのことを伝える文章を600字程度で表現する。</p> <p><事前学習>エッセイ集や新聞のコラムから、自分の気に入った文章を選び、その優しく訴える文章を学んでおく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |

| | | |
|-----|------------------|--|
| 1 3 | 詩・短歌（和歌）・俳句に学ぶ | <p><学習内容>日本語における詩・短歌（和歌）・俳句の美しさや調べを学ぶとともに、純真学園やキャンパスをテーマに、自分の作品を創る。</p> <p><事前学習>最近の新聞の文芸欄から、自分の印象に残っている詩・短歌（和歌）・俳句を読み込んでおく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 1 4 | 幼児・児童向けの短編童話づくり① | <p><学習内容>幼児・児童向けの童話を書くにあたり、全体をどのように構成するか、そのプロットを作成する。</p> <p><事前学習>図書館にある幼児・児童向けの童話を読み、その特徴を掴んでおく。（1時間）</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）</p> |
| 1 5 | 幼児・児童向けの短編童話づくり② | <p><学習内容>前時に作成した幼児・児童向けの童話のプロットを基に、童話を完成させる。</p> <p><事前学習>童話を完成するにあたり、幼児にもわかる言葉で書いているか、あらかじめ点検しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>15回の授業を振り返るとともに、次回定期試験に向け、『文章表現法』の基本的事項を再点検し復習しておく。（1時間）</p> |
| 1 6 | 定期試験 | 15回の授業を終え、授業理解全体の再確認をする。 |

| 科目名 | 担当代表教員 | 学年 | 期別 | 形態 | 必選 | 単位数 |
|---|--|---|---------|----------------|-----------|--------------------|
| 純真ゼミナールⅡ | 都築 廣久 | 1 | 後期 | 演習 | 必修 | 1 |
| | 担当形態 | 複数 | ナンバリング | | FN1113 | |
| | 担当教員 | 食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、 猿渡 君代、大濱 香、大石 紀子 | | | | |
| 【キーワード】 | 【概要】 | | | | | |
| 1 学園訓 | <p>本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。</p> | | | | | |
| 2 建学の精神 | | | | | | |
| 3 気品 | | | | | | |
| 4 知性 | | | | | | |
| 5 奉仕 | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | |
| 1. 茶道・着付により「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. ボランティアの清掃活動への参加により「奉仕」の精神を高揚させていくことができる。 | | | | | | |
| 【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】 | | | | | | 関連性 |
| 【知識・理解・技能】 | | | | | | |
| 1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。 | | | | | | |
| 2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。 | | | | | | |
| 3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。 | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | |
| 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 | | | | | | ○ |
| 2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 | | | | | | |
| 3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。 | | | | | | |
| 【関心・意欲・態度】 | | | | | | |
| 1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。 | | | | | | |
| 2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 | | | | | | |
| 3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。 | | | | | | |
| 【成績評価の方法】 | | | | | | |
| 成績指標 | 取り組み姿勢 | | 課題・提出物 | | 合計 | |
| 評価割合 (%) | 60 | | 40 | | 100 | |
| 【成績評価の基準】 | | | | | | |
| 評価 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 | |
| 評語 | S | A | B | C | E | F |
| 内容 | 特に優れた成績 | 優れた成績 | 概ね良好な成績 | 合格の最低限度を満了した成績 | 合格に至らない成績 | 受験資格なし (出席回数不足) |
| GP | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 1.0 | 0 | 0 |
| 評語 | 評価の基準 | | | | | |
| S | 各講座に極めて積極的に取り組み、課題・提出物にも必要な内容を的確に記述している。 | | | | | |
| A | 各講座に積極的に取り組み、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。 | | | | | |
| B | 各講座に積極的に取り組んでいるが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。 | | | | | |
| C | 各講座に取り組んでいるが、課題・提出物が必要最低限の内容の記述である。 | | | | | |
| 【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 | | | | | | |
| 取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。 | | | | | | |

| | | |
|---|-----------|---|
| 【教科書】 特に指定しない。適宜資料を配付する。 | | |
| 【参考書・参考資料等】 特に指定しない。 | | |
| 【関連科目】 「純真ゼミナールⅠ」「ビジネスマナー」 | | |
| 【受講心得】 主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。 | | |
| 【備考】 卒業必修 | | |
| 【学習項目】 | 担当 | 学習内容、事前・事後学習（学習時間） |
| 1 | 松藤・外部講師 | <学習内容>「自己分析を進める上のポイントについて」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。(0.5時間) <事後学習>自己分析の振り返りをする。 (0.5時間) |
| 2 | 松藤・外部講師 | <学習内容>「就職活動開始に向けた心構え」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。(0.5時間) <事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。(0.5時間) |
| 3 | 猿渡 | <学習内容>和室での礼法やマナーに則って、お客様をお招きして、おもてなしの心を感じ取る。 <事前学習>和室での歩き方などを調べておくこと。(0.5時間) <事後学習>ご挨拶等でのお辞儀の仕方など、学んだことを実践に移してみる。 (0.5時間) |
| 4 | 大濱 | <学習内容>浴衣の着方の学習、基本の帯結び、立ち居振舞いについて学ぶ。 <事前学習>着物、浴衣の成り立ち、洋服との違いについて調べておくこと。(0.5時間) <事後学習>浴衣、帯のたたみ方、着付け用具の扱い方について復習しておくこと。(0.5時間) |
| 5 | 松藤・外部講師 | <学習内容>「履歴書作成について」と題する外部講師による講和を聴くとともに、特に『学歴』『資格・免許』などを実際に作成する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。(0.5時間) <事後学習>履歴書を完成すること。(0.5時間) |
| 6 | 外部講師 | <学習内容>周囲の犯罪や災害などから自分や他人の生命・身体を守るための知識、技術、方法や、危険に近づかない知識や技術を現役の警察署員の方から学ぶ。 <事前学習>護身術について調べておくこと。(0.5時間) <事後学習>護身術の所作を復習しておくこと。(0.5時間) |
| 7 | 外部講師 | <学習内容>周囲の犯罪や災害などから自分や他人の生命・身体を守るための知識、技術、方法や、危険に近づかない知識や技術を現役の警察署員の方から学ぶ。 <事前学習>前回の護身術の所作を確認しておくこと。(0.5時間) <事後学習>新たな護身術の所作を復習しておくこと。(0.5時間) |

| | | | |
|----|---------------------------|---------|--|
| 8 | 学士基礎力講座 (1) ～漢字～ | 都築 | <p><学習内容>漢字に関する読み方、同音異義語、対義語、類義語、書き取り、部首と部首名、熟語の組み立て、四字熟語に関する練習問題に取り組む。</p> <p><事前学習>同音異義語、対義語、類義語、四字熟語について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p> |
| 9 | 学士基礎力講座 (2) ～漢字検定～ | 都築 | <p><学習内容>公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する日本漢字能力検定準2級の過去問題に取り組む。</p> <p><事前学習>日本漢字能力検定準2級の内容について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ過去問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p> |
| 10 | 人権論・人間論講演会 | 平嶋 | <p><学習内容>古典落語『あたま山』を分析しつつ、他者への思いやり不足がやがて相手の人権無視に繋がることになることを学ぶ。</p> <p><事前学習>これまでに受けた人権学習を振り返り、人権意識の低さがどこから生まれるのか、まとめておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>「人間関係性」「気づき」をキーワードに、日々の生活に人権意識を忘れない自分づくりに励む。(1.0時間)</p> |
| 11 | 履歴書作成 (1) | 大石 | <p><学習内容>就職活動に必要な履歴書の書き方(基本)を学びます。</p> <p><事前学習>保有している資格の正式名称と取得時期について予め調べておいてく(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内で書けなかった箇所を2回目までに仕上げる(1時間)</p> |
| 12 | 履歴書作成 (2) | 大石 | <p><学習内容>履歴書の中でも書くのが難しいと言われる「自己PR」と「志望動機」について説明し、作成をします。</p> <p><事前学習>事前に行なわれる純真ゼミナール「自己分析」の資料を振り返り、自己の強みや個性について考えておく(1時間)</p> <p><事後学習>履歴書を完成させキャリアセンター・就職係に提出をする(1時間)</p> |
| 13 | 奉仕活動 (1) ～清掃活動～ | 全教員 | <p><学習内容>奉仕活動の一環として、西鉄大橋駅東口周辺を中心とした清掃活動を行う。</p> <p><事前学習>社会奉仕、勤労奉仕、無償奉仕、奉仕作業、ボランティアに関して調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>奉仕活動(清掃活動)の意義を振り返ること。(0.5時間)</p> |
| 14 | キャリアガイダンス (4) ～外部講師講話～ | 松藤・外部講師 | <p><学習内容>「将来の夢を達成するために必要な事」と題する外部講師による講和を聴く。</p> <p><事前学習>将来の夢・目標を考えておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。(0.5時間)</p> |
| 15 | 奉仕活動 (2) ～清掃活動～ | 全教員 | <p><学習内容>奉仕活動の一環として、西鉄大橋駅西口周辺を中心とした清掃活動を行う。</p> <p><事前学習>社会奉仕、勤労奉仕、無償奉仕、奉仕作業、ボランティアに関して調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>奉仕活動(清掃活動)の意義を振り返ること。(0.5時間)</p> |